

## コリント人への手紙第一15章 20-28 節 「復活にある新創造」

### 1A 眠った者の初穂 20-22

1B ひとりの人による復活

2B ひとりの人による命

### 2A 順番 23-28

1B キリストの再臨 23

2B キリストの統治 24-25

3B 死の滅亡 26

4B 神への栄光 27-28

## 本文

今朝の聖書箇所は、いま読みましたコリント人への手紙第一 15 章 20-28 節です。

私たちはイエス様の復活を祝うために、今日、ここに来ました。けれども実は、毎週日曜日が、イエス様の復活を覚えて集まっています。毎週日曜日、主の死を覚えて、そして主のよみがえりを記念します。私たちの教会では、聖書通読の学びをしていますが、エステル記をこの前は読み終えました。ペルシヤ帝国にいるユダヤ人が、ハマンの手によって絶滅する危機に瀕しました。けれども、神は企みを止めさせ、代わりにモルデカイによってユダヤ人の救いをもたらし、ユダヤ人は喜びと、歓喜にみたされました。ですから、このエステル記においても、死から命に移る復活の原則が貫かれていました。

私たちの神は、いのちの神です。ただ命を与えられる方だけでなく、無から有を創造される神、死んだ者を生かすところの神です。神は、この終わりの日に、イエスを死者の中からよみがえらせることによって、私たちに生ける希望をお与えになりました。

### 1A 眠った者の初穂 20-22

いま読んだ手紙の受け取り手、コリントにある教会では、死者の復活はないのではないかという意見を言うものが出てきました。そのために教会の中で激しい議論になっていたのではないかと思われます。そこでパウロが、明確に、イエスが私たちの罪のために死に、葬られ、三日目によみがえって、十二弟子に、五百人以上の者に同時に現われ、今もその時に復活を目撃した者たちが残っているとパウロは言っています。そしてイエス様の半兄弟ヤコブにも現われ、他の使徒たちにも現われ、最後はこの卑しい自分にさえ、キリスト者らを迫害していた自分にさえ現われてくださった、と断言しました。

ここで知らなければいけないのは、キリストの復活が「事実」だということです。作り話ではなく、

事実として記録されていることです。そして復活を証言している福音書や書簡は、紀元一世紀のうちすべてが書かれています。伝説が出来上がるのはあまりにも短い期間です。そして復活の証言は、エルサレムから始まりました。すぐそばに、イエスが葬られた墓があります。もし作り話であれば、墓のありかは多くの者が知っているのですからすぐばれてしまいます。さらに、弟子たちは死に至るまで復活の事実を否定しませんでした。拷問を受けても、誰一人としてイエスが復活したという告白を曲げませんでした。嘘のために、人は命を捨てようとは考えません。

ですからイエスは良い教師として、キリスト教の教祖としてこの世に来られたものではありません。「わたしは道であり、真理であり、命です。」と言われました。イエスのよみがえりによって、確かにイエスこそが私たち一人一人の道であり、真理であり、命であることを証明したのです。残るは、その事実に対して自分がどうするのか？ということです。自分の罪を悔い改め、イエスを自分の救い主として信じ、受け入れるか、それともこの証言を拒んで、滅びるかのどちらかです。

そしてパウロは、死から命を与えられる神はイエスの復活によって、その命の原則を全宇宙に広げてくださるというのが、今私たちが読んだ箇所にあります。イエスから、イエスを信じる者たちに、そしてこの被造物すべてが新しくなり、ついに死そのものが滅ぼされることとなります。パウロが、コリント人への手紙第二 5 章 17 節で、このように断言しました。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」キリストによって新しく造られて、ついにすべてのもの、万物が新しくなるという希望です。

#### 1B ひとりの人による復活 20-21

20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。

私たちが知っている、イエス様の復活はそれだけでは終わりません。ここに書いてあるとおり、「眠った者の初穂として」よみがえったとあります。眠った者というのは、信仰をもって死んでいった者たちのことです。イエス様はラザロが死んだことを、「眠っている」と言われました。それは、文字通りではなく、死んでもまたよみがえる、だから死は一時的だということを表しています。

そして、そうした者たちの初穂である、とあります。神はイスラエルに、例年行なう、収穫祭を定めておられました。イスラエルでは大麦が三月末から四月にかけて収穫が始まります。そして小麦が五月から六月ごろ見込まれます。そして、その他の収穫は秋ですね、十月にあります。その収穫において、神はそれをご自分に捧げるよう命じておられます。大麦の収穫は、「初穂の祭り」と呼ばれます。小麦は五旬節と呼ばれて、秋は仮庵の祭りです。その大麦の初穂の収穫を主に捧げするその初穂を、今、パウロは念頭に入れてキリストの復活に当てはめているのです。

初穂はその後に続く全ての収穫を代表しています。人間でいうならば、「第一人者」であります。初めに行なったことに、その後に連なる人々が倣うのです。収穫も初穂を主に捧げることによって、

その後に出てくる全ての収穫が主のものであることを示します。つまり、ここで何が言われているのか？つまり、イエスがよみがえったのだから、イエスを信じて、キリストのうちにある者はだれでも同じようによみがえることを意味します。イエスがマルタに言われました。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。(ヨハネ 11:25)」イエスがよみがえりです。ですからイエスを信じる者はみな、死んでも生きるのです。

## 2B ひとりの人による命 22

21 というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。

初めの「死がひとりの人を通して来た」というのは、誰でしょうか？そうです、アダムです。神の造られた最初の人、アダムです。神がアダムに、「しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それと取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。(創世 2:17)」と言われました。けれども、アダムが取って食べました。神に罪を犯しました。それで彼は死んだのです。そのアダムから出てくる子孫はみな、死ぬように定められたのです。「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、..それというのも全人類が罪を犯したからです。(ローマ 5:12)」ですから、全ての人が死ぬように定められています。ヘブル書 9 章 27 節には、「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」とあります。

私たちは、100%確実に死にます。それはアダムが罪を犯したからです。罪が入って、それで死に至りました。人類は皆、アダムの子なのです。しかし大事なのは、ここでパウロは、同じように復活もひとりの人を通して来るのだ、ということです。アダムによって例外なく誰もが死ぬように定められたけれども、同じようにキリストによって、この方に拠り頼む者はだれでも復活するように定めてくださった、ということです。キリストを信じたけれども、自分がよみがえるかどうか分からないという人は、私は人間だけれども、死ぬかどうか分からないと言っているに等しいのです！それだけ、キリストの復活はそのまま、あなたご自身のよみがえりに直結しています。

千葉県我孫子に、「ラザロ霊園」という墓地があります。バプテストの教会が運営している墓地です。そこに行かれたら、これまで仏教の墓地しか言ったことのない人は驚くことでしょう。入口に、大きな十字架が立っています。そしてその下の部分には、「復活の希望」という石板が埋め込まれています。そして、その下の部分に石に、「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。」と刻まれているのです。ですから第一に私たちは、イエスのよみがえりを思い出す時に、自分自身の体の復活を思い出す必要があります。

22 すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。

私たちは、アダムの子であるのか、それともキリストの子であるかのどちらかです。アダムのうちにいるのなら、既に死んでいます。この肉体は生きているけれども、罪によって神から断絶しており、霊的に死んでいます。そして、その肉体もいつか滅びます。そして永遠の死、死後に神から引き離されて永遠を過ごさなければいけません。あるいは、キリストによって生かされます。キリストにあれば、差別されることなく誰でも生かされます。霊的に新しく生まれ、そしてイエスと同じように体も生きます。朽ちることない、罪のない栄光の体に変えられます。この部屋の中には、その中間はいません。アダムのうちにいるか、キリストのうちにいるかのどちらかでしかありません。

## **2A 順番 23-28**

### **1B キリストの再臨 23**

23 しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です。

私が、キリストによって生かされると言っても、にわか信じられない人がいるかもしれません。アダムのうちにいる人も、キリストのうちにある人も、どちらも同じように体を持ち、同じように息をしているからです。けれども、その区別がはっきりとつく時が来ます。主イエスはよみがえられ、そして今も生きておられます。そして、この方はやがて再び来られます。ご自分を信じる者をこの世から救い、そうでない者はこの世と共に滅びるようにされます。

初穂であるキリストは既によみがえられました。この方はよみがえられた後、四十日、ご自身が生きていることを現してから、エルサレムの東にあるオリーブの山から天に昇られました。けれどもイエスは弟子たちに、前もって戻ってくることを約束しておられました。「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとの迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。(ヨハネ 14:2-3)」イエス様が戻ってこられます。

このこと出来事を詳しく神から啓示を受けたのが、使徒パウロです。テサロニケ第一の手紙4章16-17節です。「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラツパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。(1テサロニケ 4:16-17)」なんという素晴らしい出来事でしょうか。イエス様を信じていたけれども、死んでしまった人がまずよみがえります。それから生き残っている私たちが、1コリント15章52節によると、一瞬のうちに変わられて、一挙に引き上げられます。そして天から空中にまで降りてこられた、キリストに会うのです。この時、死んだ者たちは復活します。生き残っている者たちは、この肉体が、イエス様の用意しておられる栄光の体にとって変わられて、それで復活と同じように、朽ちない体を身につけるのです。

ですから、私たちは第二に主イエスがよみがえられたことを思う時に、その同じ姿で戻ってきてくださり、そして私たちを引き取ってくださることを思わなければいけません。その時は、顔と顔を合わせて主ご自身に会う時です。この方に恥ずかしくないように身を整えていなければなりません。「平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように。あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをして下さいます。(1テサロニケ 5:23-24)」

## 2B キリストの統治 24-25

24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。25 キリストの支配は、すべての敵をその足の下に置くまで、と定められているからです。

イエス様の復活を思う時に、私たちは第三にこの被造物全体が、キリストのものとなることを思わないといけません。主は、天から空中に信者たちを引き取りに来てくださいます。そして今度は、地上に戻ってこられます。私たちもキリストと共に戻ってきます。その時、すべて反抗する権威や権力をことごとく滅ぼされます。悪魔は底知れぬ所で鎖につながれます。そして、ご自身が王となられ神の国を治められるのです。「敵をその足の下に置く」という表現は、戦いにおいて敵を征服した時、その王の首に自分に足を置くことによって、完全にその勢力を制圧したことを表します。

アダムが罪を犯した時に死が世界に入った訳ですが、地が呪われたものとなってしまいました。神がアダムに任せていた被造物を支配するその権利を彼自身が悪魔に明け渡してしまったからです。したがってローマ書 8 章 20 節には、「被造物が虚無に服した」とあります。ですから、私たちが見ている自然界は、必ずしも神の意図されたようになっていません。山や川、海などすばらしい自然を保っていますが、時に火山があり、海が荒れて船が遭難するなど、このような天災が起こると、人間は「なぜ神はこのようなことをするのか。」と、神に盾付きます。いいえ、これはアダムが罪を犯したので、地が悪魔のするように明け渡されてしまっているからです。

イエスは、神であられるのに人間となくなりました。そしてアダムの罪から始まる、すべての罪をご自分の身に受けて死んでくださいました。そして復活されたのです。その復活が、被造物全体の中での新創造の始まりです。イエスはご自身を生かすためによみがえられただけでなく、また、ご自分のものとされたキリスト者をよみがえらせるだけでなく、この世界全体を刷新するためによみがえられたのです。アダムの罪以降、この宇宙に罪と死の法則が動いてしまったのですが、イエスの復活以降、この宇宙に新しい創造の法則が働き始めました。これはわくわくすることです。

しばしば、キリスト者の間で、「イエス様によって救われたから、あとは天の故郷に戻るだけだ。」とと思っている人が多いです。そして、自分に与えられているこの世での仕事、未信者の家族のこと

は意味を持たない、ただ教会と福音のことをするのに価値がある、と思っています。いいえ違います。イエスにあって新しい命を得た者、後に復活する者は、キリストが全ての権威をご自分の下に置く神の国において、ご自分のものとした者たちと共に神の国を治められるのです。

したがって、イエス様は、商売の話をされました。主人が旅に出るので、十人の僕を呼んで、十ミナを渡して、それで商売をするように言いつけたのです。そして、一ミナで十ミナまでもうけたものには、十の町を支配する褒美を主人は与えました。(ルカ 19 章参照)ですから、今ここで行っている仕事は、そのまま神の国に直結しているのです。今、主に対して行っている仕事、それが子育てであっても、学業であっても、会社であっても、そこで忠実に主に対して働くことが、将来、神の国の中でキリストに任されて治める所に、そのままつながるのです。今、自分が任されている仕事は、主に対して行なうものであり、この世での給料以上に、イエスご自身から報酬が与えられるのです。

### 3B 死の滅亡 26

そして次が大事です。26 最後の敵である死も滅ぼされます。

まず、これがいつ起こるのかをご説明したいと思います。キリストがすべての権威と権力を滅ぼし、敵をご自分の足台とされた神の国は、黙示録 20 章に抛りますと千年間続きます。そのため、しばしば千年王国と呼んでいます。千年間の終わりの時に、底知れぬ所につながれていた悪魔が解き放たれます。そして、なんと多くの者たちが悪魔に付き従い、聖なる都エルサレムを取り囲みます。しかし、天から火が降って焼き尽くします。悪魔は燃える火の池に投げ込まれます。

そして、今の天地はすべて逃げ去ります。残されたのは、父なる神の御座のみです。そこに呼び出され、裁かれるのは、「死とハデス」と書いています。「海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行ないに応じてさばかれた。(黙示 20:13)」イエスが行ってくださった、十字架の上での罪の贖いを拒んだ人々は、死んだ後に地の下にあるハデスに閉じ込められます。しかし、そこにいる者たちがよみがえる時があります。それは、この最後の審判を受けるためによみがえるのです。そして、その行いによって裁かれます。そして 14 節にこう書いてあります。「それから死とハデスとは、火の池の中に投げ込まれた。これが第二の死である。」この時点で、死が滅ぼされるのです。

ですから、イエス様の復活を思う時は、第四に「死が滅ぼされる時」であることを思い起こします。イエス様がよみがえられるのは、他の人々が生き返ったのとは違います。旧約において、エリヤもエリシャも男の子を生き返らせました。福音書には、イエス様はヤイロの娘、ナインの青年、そしてラザロをよみがえらせました。けれども、そのよみがえりは、あくまでもこの肉体をもってよみがえったのであり、それは老いて、死んでいくものでありました。イエスがよみがえられた時は、朽ちない、滅びない復活の体なのです。そして私たちが身につける復活の体も、朽ちない体なのです。「終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによ

みがえり、私たちは変えられるのです。朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです。しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた。」とされる、みことばが実現します。(1コリント 15:52-54)」

私は、これに喜び踊ります！死ぬことは、悪魔以上に、神にとっての最後の敵であります。神は人を死ぬようにお造りになりませんでした。しかし、生まれたのに死ななければいけない定めの中に人は置かれました。イエス様が、ラザロが死んだことを悲しみ、泣いているマリヤや他のユダヤ人の姿を見て、涙を流され、心に憤りを抱かれました。それは、死というものがどれだけの空しさ、苦しみ、悲しみ、嘆きをもたらすか、それに対する怒りでした。ヨブが苦しみを受けた時に、彼が発した初めの言葉は、生まれた日のことを呪ったことです。すべての苦しみと悲しみは、死から発生しているものです。ですから、新しい天と新しい地において、「彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってください。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。(黙示 21:4)」イエス様は死そのものを滅ぼすため、よみがられました。

#### 4B 神への栄光 27-28

27「彼は万物をその足の下に従わせた。」からです。ところで、万物が従わせられた、と言うとき、万物を従わせたその方がそれに含まれていないことは明らかです。28 しかし、万物が御子に従うとき、御子自身も、ご自分に万物を従わせた方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。

最後の審判の後に、神は新しい天と新しい地を再創造して下さいます。そして万物をイエス様は従わせた後で、ご自身が父なる神の下に服従されます。イエス様は父と同じ神ですが、父なる神のみが全てとなるためにご自身は従われるのです。黙示 22 章 1 節にある神の御座は、神と小羊の御座となっています。その御座は二つではなく、一つだけです。小羊なるキリストが父なる神と一つになっておられる姿です。

したがって、イエス様がよみがえられたことを思う時、それは第五に、神が全ての全てとなられるためです。神に全ての栄光が行くためです。ローマ 11 章の最後で、神の救いのご計画の全貌をパウロが語った後で、「すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。(36 節)」とあります。私たちは、自分たちのためによみがえらせてもらうのではありません。罪の中で死んでいた私たちを、復活させていくことによって、復活の神としてご自身に栄光が行くためであります。

ですから私たちがイエス様のよみがえりを見る時に、まず私たちもよみがえるのだということ。第二に、よみがえられたイエス様が天から戻ってきてくださることを思います。その時に私たちはよみがえります。第三に、被造物全体がキリストのものになります。第四に死そのものが滅びます。第五に、神がすべてとなります。イエスがよみがえられたという歴史的事実が、これだけのことを

変えるのです。確かに初穂であります。その後続く大収穫は、新しい創造であります。

みなさんが、ぜひキリストにあるこの新しい創造の御業の中に入っていますように。そして、外なる人は衰えても、必ず新しい体を得るという希望をもって、内なる人が新しくされますように。そして、今、自分たちが生きているところもいずれ、イエス様の支配によって新しい命を持つことを思いましょう。もうイエス様はよみがえられたのです。古いものは過ぎ去りました。イエス様の新しい働きを待ち望みましょう。